七里っ子

【学校教育目標】
確かな学力　豊かな心
健康な体　郷土愛

道志小学校　学校だより　令和６年３月１１日
文責：校長　佐藤龍文

感謝の心を行動に　～６年生愛校作業～

３月７日の５・６校時に６年生が校舎の様々な場所を掃除してくれました。まもなく卒業を迎える６年生は、家庭科の学習の一環として６年間学んだ道志小学校への感謝の気持ちを掃除という形で行動に表してくれました。事前に、自分達で校舎内を観察して汚れている場所を探したり、先生方に相談したりしながら掃除をする場所を決めました。当日の様子は、みんな真剣な表情で、汚れを落とすために何度もスポンジで擦ったり、ガラスを拭いたりしてくれ、普段の清掃時間ではやり切れない場所を集中して掃除してくれました。掃除が終わり綺麗になった場所を見ると、６年生の一生懸命さが伝わってきて心が温かくなりました。

今、東階段の踊り場の壁に６年生が書(描)いた卒業までの日数を示すカウントダウンの紙が貼られています。一人ひとりが「卒業まであと何日」を意識して、残りの小学校生活に向けたメッセージを個性豊かに書（描）いています。８人の仲間と悔いなく過ごしてほしいです。

６年生は、３月１５日に向けてラストスパートに入っています。素晴らしい卒業式になるように担任の小関先生と一緒に素直な気持ちで頑張ってほしいです。勿論、チーム道志小として、在校生と教職員もそれぞれの立場で６年生の巣立ちを全力で応援します。

６年生
ありがとう！

疑似体験が意識下に蓄積　～読書がもたらす効用～

読書が子どもの学力を上げるのに役立つことは、各種データによって示されていますが、脳の機能からみた読書という行為の効用について人工知能研究者の黒川伊保子さんという方が、興味深いお話を著書で紹介しています（「子どもの脳の育て方」）。

子ども達が日常的に触れることの多い動画やゲームも学習に役立つ面がありますが、これらに比べて読書は学習効果が高いとのこと。その理由として「読書には主人公の顔がない」ことを挙げています。動画やゲームには、基本的に主人公となる存在がおり、視聴者は第三者的な立場になります。一方、本には主人公となる存在はいますが、顔がないことで、読者は文を読みながら主人公の体験したことを脳内で想像(創造)します。その際、自分の経験してきた知識や記憶を織り込んで五感の情報を脳が生成（想像・創造）することになります。この過程で自分と主人公との境界線があやふやになり本の中の体験が自分事になって脳内にとどまる可能性が高まるそうです。読書で想像(創造)した内容は、睡眠中に脳内で整理され、あたかも自分が体験したことのように知恵や感覚等の源になり、思考力の向上にも繋がっていきます。

勿論、実際の体験から多くのことを学べることは間違いありませんが、読書で通常経験できないことを脳に疑似体験させられるのであれば、その効果を生かしたいものです。黒川さんのお勧めは、自分の子育ての経験から主人公を通じて忍耐力や責任感を学ぶことができる『ハリーポッター』等のファンタジーだそうです。楽しみながら様々なことを学べたらと思います。